

生活工学共同専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活工学の意義を深く理解するとともに、各研究分野における十分な理工系学力、自立研究能力、指導的役割を担い得る能力を身につけていることが課程修了に必要な要件である。本共同専攻博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、複数教員による必要な研究指導を受けた上で、博士論文の研究成果の審査及び最終試験に合格することが学位授与の要件である。

後期課程修了者には、新分野である生活工学を、現代社会において広く発展させる志と能力を有することが求められる。すなわち、生活関連課題の解決には、工学技術に、生活に根ざした生活者の視点を融合させることが重要であることを深く理解するとともに、具体的問題に対しての課題設定能力、新規性に優れる解決方策の考案・実現、および、発表能力を有していることが求められる。

学位種類に関しては、学生は、入学時及び各年次中間報告会の際、希望学位を提示するとともに、指導教員（主・副）はそれを研究内容とともに十分に検討し、相応しい科目履修を指導するとともに、適切な研究指導を実施する。さらに最終的に提出された博士論文の内容も考慮したうえで、以下の学位を授与する。

- ・博士（生活工学）：人間とそれを取り巻く生活環境を深く検討した上で、現実的諸問題に対し生活工学的課題解決を提案・具現化し、それを工学並びに人間生活の観点から評価した研究。
- ・博士（工学）：人間とそれを取り巻く生活環境を検討した上で、現実的諸問題に対し工学的課題解決方策を提案・設計・新規技術開発するとともに、その開発成果を技術的工学的観点から評価した研究。工学的観点から格段に高い新規性・有用性が求められる。
- ・博士（学術）：人間とそれを取り巻く生活環境について、現実的諸問題に対し工学的課題解決を検討し、人間や生活に重点をおいて人間科学、社会学、歴史学などの観点から総合的に評価した研究。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活工学分野において、生活向上のための生活環境改良方策を具体的に提案する能力を培う。現実的諸課題の解決に求められる創造的能力を養うとともに自立した研究者を育成するため、博士論文指導を中心とした以下のカリキュラムを編成・実施し、学術研究の能力を開発する。

- ・生活者の視点から生活関連諸課題を柔軟に捉えるために、本分野における諸研究課題の探索と解決

に向けた手法を学修し、確固たる課題設定・解決・評価能力を身につける。

・生活関連諸課題の解決に求められる、工学分野の理論・知識を修得・応用できる能力を養うとともに、他の研究分野とのコラボレーションの重要性・必要性を深く認識し、生活・環境と科学技術を互いに整合させる手法を確実に身につける。

・研究者・技術者としての倫理責任を自覚し、優れた研究成果をもって社会の発展に寄与するためのコンプライアンス感覚を身につける。

・主指導教員と副指導教員による複数指導体制のもと、学位論文を作成する。論文作成を通じ、独創性と先端性に優れた高度な研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力、発表能力等も養成する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、人間生活における諸課題を柔軟に捉え、生活に根ざした生活者の視点を工学手法に融合させることで研究を展開できる能力を有する女性人材の育成を目的とします。とくに、自立的に研究を展開でき、かつ、指導的役割を担い得る人材育成を目指します。そのために、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学諸分野の基礎から応用までを幅広く学ぶことで、新たな分野である生活工学を創出し、高度な学術的発展を目指した教育研究を展開します。

【求める学生像】

- ・人間と生活環境に関わる現実的諸課題に強い関心を有し、生活工学的視点をもって解決に取り組む意欲・能力を有する人
- ・研究に求められる基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度技術者を目指す人
- ・社会人としての基盤を保ちつつ、より高度な専門能力の開発を目指す人
- ・上記に必要な修士相当の学力、ならびに、理工学系諸科目の学力を有する人
- ・研究成果の学術的発展を通じて社会貢献する高い志を有する人

【入学者選抜の方法】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

一般選抜

修士論文もしくはそれに相当する論文等（又はその要旨など）、研究計画書、専門性を問う口述試験の結果を総合して判定します。

社会人特別選抜

修士論文もしくはそれに相当する論文等（又はその要旨など）、研究計画書、社会人特別選抜を希望する理由や専門性を問う口述試験の結果を総合して判定します。

外国人留学生特別選抜

修士論文もしくはそれに相当する論文等（又はその要旨など）、研究計画書、日本語あるいは英語でのコミュニケーション能力と専門性を問う口述試験の結果を総合して判定します。

なお、上記の選抜では、社会人等多様な学生のチャレンジを促すために以下のような支援制度を設けています。

- **長期履修学生制度**

職業を有している等の理由で、一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られた学生を対象に、事情に応じて就業年限を標準3年からより長期に設定することが可能です。

- **博士前期課程修了者博士号取得支援制度**

修士課程を修了し、1年以上の社会経験を経た者を対象に、博士号取得を支援する制度です。